

練習

学習内容の習熟を図って

コース別練習

(1) よし、この問題ならできそうだ 5年生「小数のわり算」の実践より

学習の終末には練習問題をよく行わせるが、「どうせ自分にはできないで...。」などと、意欲を失ったり苦痛に感じる子どもの姿をときに見かける。そこで、本単元では、コース別練習を導入し、各自の力に合わせて問題の難易度が選択できるような工夫を試みた。

T: 「これから小数のわり算の練習をコース別に行います。苦手なところを復習したり、得意なことに挑戦したりして、自分の力を伸ばしましょう。最初は全員が次の計算をして下さい。」

確認問題

$48 \div 3.2$	[整数 ÷ 小数]
$35.1 \div 2.6$	[小数 ÷ 小数]
$25.3 \div 3.7$ (1/100の位まで)	[小数 ÷ 小数、あまりがある]

答え合わせの結果をもとに、自分でコースを選択する。

子どもの意識

少しむずかしかった。
もっと前の勉強から
復習したい。

だいたいできた。
同じような問題を
もっとときたい。

楽々できた。
むずかしい問題に
ちょう戦したい。

きほんコース
(4年生の復習も含む基本的な問題)

確かめコース
(確認問題と同程度の問題)

ちょう戦コース
(難易度の高い問題)

- < 教師の指導・援助 >
- 1) コースの選択に迷っている子には助言をする。
 - 2) 「きほんコース」を中心に、つまずきのある子の個別指導を行う。
 - 3) 各問題や解答用紙は、子ども達が自主的に取りにいけることができるように、前の机の上に用意しておく。

仲間と相談したり教師のもとに質問に来たりする子もいれば、最初から一人でコツコツと取り組む子もいる。交流は自由に行わせるが、原則としては個人での取り組みを大切にしたい。子ども達は、自分の力に合った問題がほしい選択できていたように思うし、いつもよりも熱心であった。特に、算数を苦手とするA君とB君が互いに教えあいながら、「きほんコース」を最後までやり切った姿がとても印象に残る授業だった。

ゲーム

(2) 5ならべ、おうちでもやりたいな 1年生「20までの数」の実践より

算数の学習を始めてまだ日の浅い1年生には、「20」という数は、きっとずい分と大きな数に思えるに違いない。20までの数を順序正しく、そして、楽しく覚えさせることが大切だと思い、数字カードを使ったゲームを導入した。

「トランプの7ならべを知っていますか?」と尋ねたところ、「やったことある。」「知らないなあ。」と思いきいに話し始める子ども達。そこで、次のようなことを提案した。

かーどならべを しましょう。

ルール

2人がペアになって行う。

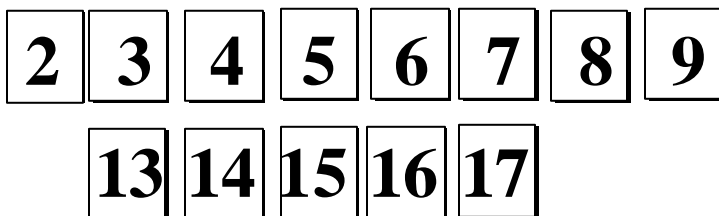
1～20までの数字カードをよくきって、10枚ずつ分ける。

手持ちのカードに5か15があれば、最初に抜いて机の上に出す。

じゃんけんで勝った子から、1枚ずつ交互にカードを並べていく。

(隣り合う数のカードを順序正しく)

パスは2回までできる。先に手持ちのカードがなくなった方を勝ちとする。



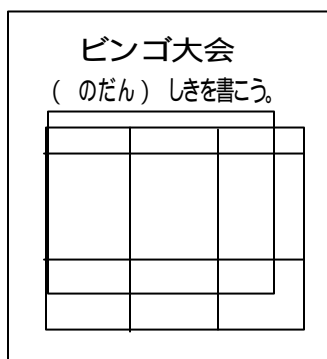
子ども達は、こちらの予想以上に「5ならべ」のゲームに喜んで取り組んでいた。配られたカードの内容によっては、20までの数をよく理解している子もおぼつかない子も、互角の勝負ができるので楽しめたようである。また、2人でお互いの間違いを指摘しあいながら、数の順序についてより習熟させることができた。

活動の時間を多くとったことで、ゲームの楽しさを十分に味わうことができた。授業終了後には、「せんせい、やすみじかんにもあそんでいい?」「おうちでもやりたいな。」といった声が子ども達から聞かれた。

(3) かけ算ビンゴは楽しいな

2年生「かけ算」の実践より

かけ算の九九の学習では、被乗数が変わるごとに、同じような内容の授業が展開されるため、子ども達の意欲の持続が難しいのでは...と心配に思った。そこで、楽しく九九を覚えさせるとともに、その習熟度が子ども達にも確認できる1つの方法として、ビンゴの導入を考えた。そして、1つの段の暗唱練習をすませた後には、毎回、必ずビンゴ大会を設けた。



このビンゴには2通りの実施方法があり、9マスの中に九九の式を書き入れるものと、答えを書き入れるものがある。教師は、前者の場合は九九の答えを、後者では式を読みあげることになる。正解したところには色鉛筆などで印を打っていかせたが、縦や横、斜めに3つ揃うたびに、子ども達の歓声が教室に響いた。また、教師が読みあげる際に、ブラックボックスからカードを取り出すように工夫したところ、より一層ゲーム性が増して楽しいものとなった。

暗唱

(4) パスポートをもって、しょくいん室へ

2年生「かけ算」の実践より

九九の暗唱をめざす子ども達にとって、意欲的に頑張れて励みになるようなものを...という発想から生まれたのが「かけ算名人パスポート」である。これは、実際のパスポートの大きさに模して作った簡単な冊子である。その中身は、各段の九九ごとに「友だち」「先生」「全校の先生」「おうちの人」と4つの欄に分かれた表が載っている。自分が覚えた九九の暗唱をそれぞれの人に聞いてもらい、合格ならばはんこやサインをもらってくるというものだ。「ぼくが一番に名人になるぞ!」というある子のつぶやき。まさに、「かけ算名人」の証明となるパスポートを手に入れるために、子ども達の九九への挑戦が始まった。

尚、この実践は、学年全体で取り組んだものである。全校の先生や保護者の方には、その主旨を前もって伝えて協力を依頼した。また、子ども達には、職員室の先生にお願いするときの挨拶の仕方など、マナ - 面での指導を徹底させた。

その日から...、仲間どうして協力したり競争したりしながら、子ども達は合格のサインを増やしていった。

職員室には、2年生の長い行列ができた。「楽しいはんこをおしてくださる先生がいるよ。」「かわいいシールがはってもらえたよ。」などと、お互いに情報を交換することも...。パスポートを手握り、一生懸命になって九九の暗唱に取り組む子ども達の姿には素晴らしいさを感じた。

名人から仙人へ

晴れて「かけ算名人」になった子ども達。次は、「かけ算仙人」をめざした修行が始まる。...これは、「逆順の九九が正しく唱えられる力をつけさせよう」と思って作成した1枚カードである。今回は、担任と友達に聞いてもらいチェックを受けることとした。正順の九九がしっかりと暗唱できる子は、かなり早い時期に逆順も全部合格できたようであった。

かけ算名人パスポート

< 6のだん > のまき

大きなこえで、ゆっくりととなえましょう。
 けんていしてくれる人に シールやはんこ
 をもらいましょう。1こでもいれけれど、たく
 さんもらえらるともっと楽しいね。

友だち				
先生				
全校の先生				
おうちの人				

やった！とうとう半分だ。やればできるね。

かけ算せん人カード

名前 ()

こんどはかけ算名人から かけ算せん人 になれるようにファイトじゃ！

せん人は九九をさかさまからも となえられるんじゃぞ。きみたちには、ちと むずかしすぎるかな？
 いや、きっとできるじゃろうて。楽しみにまっておるぞ。 先生

1のだん								
2のだん								
3のだん								
4のだん								